

製品名: MMP13 (15M12) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe13978**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	54kDa

抗原情報

遺伝子名	MMP13
別名	CLG3; matrix metalloproteinase 13 (collagenase 3); MMP13;
遺伝子 ID	4322.0
SwissProt ID	P45452
免疫原	ヒト MMP13 の合成ペプチド

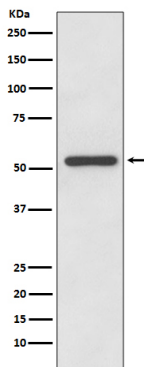
背景

MMP13 の欠陥は、ミズーリ型脊椎骨端骨異形成症 (SEMD-MO) [MIM:602111] の原因です。小児期に中等度から重度の骨幹端変化、軽度の骨端線障害、大腿骨および/または脛骨の弯曲、内反股、内反膝、洋ナシ形の椎骨を伴う下肢の肢根短縮を特徴とする骨疾患です。骨幹端骨端線の変化は加齢とともに改善します。線維性コラーゲン、フィブロネクチン、TNC、ACAN などの細胞外マトリックスタンパク質の分解に関与しています。I 型、II 型、III 型コラーゲンなどの三重らせんコラーゲンを切断しますが、可溶性 II 型コラーゲンに対する活性が最も高くなります。IV 型、XIV 型、X 型コラーゲンも分解できます。TGFB1 や CCN2 などの主要な制御タンパク質を活性化または分解することによって機能する可能性もあります。創傷治癒、組織リモデリング、軟骨分解、骨の発達、骨の石灰化および骨化に関与する。正常な胎児の骨の発達と骨化に必要である。軟骨内骨化を介して骨折の治癒に関与する。創傷治癒に関与するが、そのメカニズムはおそらく TGFB1 のタンパク質分解による活性化と CCN2 の分解を伴う。創傷治癒中のケラチノサイトの移動に関与する。細胞遊走および腫瘍細胞の浸潤に関与する可能性がある。

研究分野

血管新生

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の MMP13 発現のウェスタン プロット分析。